

チームオレンジ活動事例

＊ 令和8年度栃木県版 ＊



栃木県保健福祉部高齢対策課

目次

- 足利市 (仮) モルック・料理教室
- 栃木市 チームオレンジえぼすけ
- 栃木市 **STAND BY YOU**
- 栃木市 チームオレンジふじおか
- 栃木市 チームオレンジにしかた
- 栃木市 チームオレンジつが
- 栃木市 チームオレンジおのでら
- 佐野市 チームオレンジイオンモール佐野新都市
- 佐野市 チームオレンジ梅の里
- 鹿沼市 おれんじのめがね
- 日光市 稲荷町2丁目チームオレンジ
- 日光市 チームオレンジ平成町
- 小山市 チームオレンジ ほのかさろん
- 小山市 チームオレンジ「オレンジカフェ」
- 小山市 いきいきふれあいセンター「おおや」
- 小山市 間々田地区 オレンジカフェ ひなたぼっこ
- 小山市 百歳体操 栗林
- 小山市 ヘルスエクササイズ21
- 小山市 いきいきふれあいセンターおもい川
- 小山市 歩々歩の会
- 小山市 小薬いきいきクラブ
- 小山市 中久喜 ひまわり会
- 小山市 下梁友愛サロン「にじ」
- 小山市 羽川南ふれあいクラブ
- 小山市 サロン・ド・扶桑
- 小山市 三峯100歳体操クラブ
- 小山市 夢紡ぐ家 ～たむらさんち～
- 小山市 いきいきふれあいセンター寒川
- 小山市 穂の香苑
- 小山市 扶桑県営ふれあいサロン
- 真岡市 オレンジパートナー
- 大田原市 チームオレンジ(大田原)
- 矢板市 チームオレンジいこいず
- 矢板市 なんくるないさあ
- 那須塩原市 オレンジドアにしなす
- 那須塩原市 笑温カフェ in くるる
- 那須塩原市 円と縁
- さくら市 チームオレンジさくら
- 那須烏山市 那須烏山市ふれあいの里
- 那須烏山市 那須烏山市介護予防サポーター
- 下野市 チームオレンジしもつけ
- 上三川町 上三川町チームオレンジ「マリーゴールド」
- 益子町 チームオレンジ ましこ
- 茂木町 チームオレンジすまいる
- 市貝町 チームオレンジ いちかい
- 芳賀町 芳賀町
- 壬生町 チームオレンジ福来ら
- 野木町 チームおれんじ
- 塩谷町 チームおれんじしおや
- 高根沢町 チームひまわり
- 那須町 ゆっくりサロン
- 那須町 こもれびの時
- 那須町 ほっとカフェ
- 那珂川町 那珂よしオレンジ

足利市

(仮) モルック・料理教室

活動開始時期

令和7年1月

類型

第 2 類型

目的・ コンセプト

『ひとりにしない認知症支援』のもと、支援する側・支援される側でなく、誰もが仲間として集える居場所づくり

【活動内容・活動頻度】

- ・モルック、料理教室などのイベント（年4回～）
- ・食事・運動・談笑を楽しむ

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・たかろばカフェ（認知症カフェ）『ピーターパン』へ参加した認知症の方・家族の気持ちに寄り添い、モルックや料理教室などのイベントを年4回以上開催
- ・認知症を意識させ過ぎず、参加しやすい居場所を目指す

【効果】

- ・参加者が認知症を特別視せず、楽しみながら参加できる
- ・モルック体験から、地域で開催されているモルックに参加するなど、社会参加のきっかけとなっている
- ・見守りネットワークができる

【今後の展望・課題】

- ・たかろばサポーターを中心に本人・家族、地域住民が主体的に活動し、社会参加のきっかけとなるような場にしていきたい

【アピールポイント】

- ・地域のモルッククラブと協力して、誰もが楽しめる雰囲気の中で活動している

【メンバー構成】

- ・チーム員：約20名
- ・属性：認知症のご本人・ご家族、地域住民、たかろばサポーター（ステップアップ講座修了者）、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター

【連携する機関】

認知症地域支援推進員、地域のモルッククラブ、地域包括支援センター、たかろばサポーター、福祉施設、生活支援コーディネーター

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・本人・家族の意向を取り入れ、その実現に向けて、たかろばサポーターの協力を得ながら活動している
- ・誰もが参加しやすく、楽しめる雰囲気づくり
- ・『新しい認知症観』について、たかろばサポーター向けの研修に取り入れる



栃木市

チームオレンジえぼすけ

活動開始時期

令和6年9月

類型

第2・3類型

目的・ コンセプト

2つのカフェを拠点に、「入り口は認知症、出口はまちづくり」を合言葉として、地域の方がほっとできる集える場所を目指して活動しています！

【活動内容・活動頻度】

- ・すけっとカフェ（認知症カフェ） 月1回
- ・えぼっくカフェ（認知症カフェ） 奇数月に1回
- ・お寺DEトーク 偶数月に1回
- ・出張えぼっく屋台カフェ 不定期

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

元々同地域にてすけっとカフェが長く運営されており、地域でも親しまれていた。同地域に新規の認知症カフェとしてえぼっくカフェを開設する際、同地域で実施しているカフェと横のつながりを作ろうとすけっとカフェ代表者に声をかけ令和6年9月に設置。

【効果】

- ・認知症カフェにおいて認知症の人やその家族等との交流を行い、認知症への関心やともに地域で暮らすことへの理解を深める。
- ・地域において、認知症や高齢世帯、独居で引きこもりがちの人に声をかけ、認知症カフェ等の交流拠点への来所につなげる。

【今後の展望・課題】

介護・医療の専門職の方、ボランティアの方にも多く協力いただいております。一般参加者も増えてきています。参加者の目的も様々で、その場で相談を希望する方もいる。講話等を聴くばかりでなく、相談しやすい環境づくりを行っていききたい。

【アピールポイント】

認知症当事者の方がメンバーとして参加しています。当事者は元カフェの経営者であり、経験を活かして認知症カフェ運営に助力いただいています。「新しい認知症観」にもあるように、認知症になってもできること・やりたいことがあり自分らしく暮らすことができることを体現したチームです。

【メンバー構成】

- ・チーム員：25名
- ・メンバーの属性：介護事業所代表取締役、介護事業所職員、市民ボランティア、認知症当事者、認知症当事者家族、認知症サポーター、認知症キャラバンメイト、栃木県もの忘れ・認知症相談医（オレンジドクター）、民生委員児童委員、生活支援コーディネーター、ますます元気サポーター、社会福祉協議会、特養施設長

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・認知症初期集中支援チーム

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・活動していく上で、自主性を尊重しつつ必要に応じて支援を行っている。
- ・チーム員の活動の共有、交流、研修によるステップアップの機会として定例会が2回開催されており、情報提供等を行っている。



栃木市

スタンド バイ ユー
STAND BY YOU

活動開始時期

令和4年10月

類型

第2類型

目的・
コンセプト

「STAND BY YOU = あなたのそばにいるよ」という思いを込めて
認知症の人に寄り添うやさしいまちづくり

【活動内容・活動頻度】

- ・オレンジカフェおおひら（月2回）
- ・オレンジカフェ大平下病院（年4回）
- ・本人ミーティング（年4回）
- ・男性介護者のつどい（月1回）
- ・福祉に関する相談会（月1回）
- ・第2層協議体（年2回）、第3層協議体（月2回）
- ・地域イベント（作品展示交流会）の参加など啓発活動

【メンバー構成】

- ・チーム員：36名
- ・メンバーの属性：地域密着型特養職員、地域ボランティア
民生委員、傾聴ボランティア、ますます元気サポーター
薬剤師、介護支援専門員、訪問看護リハビリステーション
社会福祉協議会

【連携する機関】

介護保険サービス事業所、医療機関、調剤薬局、図書館、
サークル団体、社会福祉協議会、地域包括支援センター

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・令和3年9月、既存の認知症カフェをリニューアルするに
あたり、運営者、社会福祉協議会とともに「チームオレンジ」
の活動拠点とすることで始動。
- ・令和4年4月「オレンジカフェおおひら」オープン。活動
を通じてスタッフにチームオレンジを周知。日常生活圏域
地域ケア会議構成員にも賛同を呼びかけ10月20日に設置。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・チームメンバーの交流、研修によるステップアップの機会
のため、年2回定例会を開催している。
- ・地域住民が気軽に参加できるよう、オレンジカフェ後に第3
層協議体を行っている。

【効果】

- ・カフェに多職種や関係機関が参加することによって、地域
住民とサービス事業所職員の顔の見える関係ができています。

【今後の展望・課題】

- ・チームオレンジの活動を発信し、地域住民のニーズに合わ
せた活動を継続的にやりたい。

【アピールポイント】

- ・多くのニーズに対応できるように、介護や医療など多職種のメンバー、関係機関と連携している。
- ・本人や家族など地域住民の声を拾い、第3層協議体で共有することによって、地域ケア会議へとつなげる体制ができています。

栃木市

チームオレンジふじおか

活動開始時期

令和6年2月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを進めるため、支え合い、助け合いの社会を目指す。

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェ（月に1回）
- ・定例会（月に1回）
- ・地域イベントへ参加（ふくしまつり、ふくぴーカフェ等）
- ・認知症サポーター養成講座支援（小・中学校）

【メンバー構成】

- ・チーム員：25名
- ・メンバーの属性：民生委員、社会福祉協議会、ケアマネジャー、ますます元気サポーター、薬剤師、福祉用具専門相談員、地域協力者等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・藤岡地域に交流できる場がない課題を受け、民生委員・ますます元気サポーター・施設の職員等で検討を重ね、認知症カフェを開設した。その運営を担う団体としてチームオレンジを設置した。

【連携する機関】

- ・社会福祉協議会
- ・子育て支援センター
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・地域に根付いた普及活動が出来ている。
- ・メンバーに施設職員や福祉用具専門相談員が加入していることで、地域の社会福祉施設や福祉用具事業所との連携が図れている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・月に1度実施している認知症カフェの後に、定例会を実施している。

【今後の展望・課題】

- ・認知症カフェの参加者が少ない地区の参加者を増やすために、藤岡地域第2層協議体と連携して参加者が少ない地区において出張オレンジカフェを行っていく。
- ・認知症当事者が集える本人ミーティングの場の設置について検討していく。

【アピールポイント】

- ・認知症サポーター養成講座を小・中学校向けに行ったり、子育て支援センターと合同で事業を行うなど幅広い世代へ向けた普及活動が出来ている。
- ・地域役員やボランティア、ケアマネジャーなどの熱い思いを持ったメンバーで構成され、それぞれのメンバーの強みを活かして活動している。



栃木市

チームオレンジにしかた

活動開始時期

令和6年1月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

寄り添い合い、見守り合い、認知症への理解の輪を地域に広げる

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェの活動支援
- ・定例会（月1回）

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

令和4年12月から認知症サポーターカフェを開催し今後の活動内容を協議しながら、令和5年度よりオレンジカフェの運営を開始、令和6年1月にオレンジカフェにしかたを登録、カフェを拠点に「チームオレンジにしかた」を立ち上げた。

【効果】

- ・認知症カフェを活動拠点とし、相談、交流、学びの場として、地域に根差しており定着している。また、施設利用者が参加するなど、地域とつながりを持つことが出来る。
- ・現状把握や関係機関との連携が図れている。
- ・メンバー間での情報共有が図れており、共通認識を持つことが出来る。

【今後の展望・課題】

- ・西方地域の色を活かし、より一層充実した活動を目指す。
- ・メンバーの一体感を醸成し、活動を継続していく。

【アピールポイント】

- ・認知症の方も地域の仲間の一人として、誰もが安心して集い、楽しく過ごせる居場所。
- ・活気がありながらも、アットホームで居心地の良い雰囲気。

【メンバー構成】

- ・チーム員：17名
- ・メンバーの属性：地域ボランティア、施設職員、社会福祉協議会職員 など

【連携する機関】

民生委員、小規模多機能型施設、グループホーム、高齢者施設、居宅介護支援事業所、各ボランティア団体、社会福祉協議体、地域包括支援センター

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・カフェ終了後に定例会を開催し、情報を共有している。
- ・個々の特性や強みを活かした活動内容にしている。

栃木市

チームオレンジつが

活動開始時期

令和7年7月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

寄り添い合い、見守り合い、認知症への理解の輪を地域に広げる

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェの活動支援
- ・傾聴ボランティアメンバーによる訪問活動
- ・定例会（月1回）

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

令和4年12月から認知症サポーター交流会を開催し今後の活動内容を協議しながら、令和5年度よりあいあいカフェの運営を開始、翌年認知症カフェとして登録、令和7年7月にカフェ拠点に「チームオレンジつが」を立ち上げた。

【効果】

- ・認知症カフェを活動拠点とし、相談、交流、学びの場として、地域に根差しており、定着している。また、施設利用者が参加するなど、地域とつながりを持つことが出来る。
- ・訪問活動により現状把握や関係機関との連携が図れている。
- ・メンバー間での情報共有が図れており、共通認識を持つことが出来る。

【今後の展望・課題】

- ・都賀地域の色を活かし、より一層充実した活動を目指す。
- ・メンバーの一体感を醸成し、活動を継続していく。

【アピールポイント】

- ・認知症の方も地域の仲間の一人として、誰もが安心して集い、楽しく過ごせる居場所。
- ・あたたかく和気あいあいとした雰囲気。

【メンバー構成】

- ・チーム員：21名
- ・メンバーの属性：地域ボランティア、傾聴ボランティア、民生委員、施設職員 など

【連携する機関】

民生委員、小規模多機能型施設、グループホーム、高齢者施設、居宅介護支援事業所、各ボランティア団体、社会福祉協議体、地域包括支援センター

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・カフェ終了後に定例会を開催し、情報を共有している。
- ・個々の特性や強みを活かした活動内容にしている。

栃木市

チームオレンジおのでら

活動開始時期

令和7年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

地域とともに認知症の理解を深め、普及啓発活動を**地域**とともに行う。

【活動内容・活動頻度】

- ・定例会（月1回）
- ・地域イベントへ参加（ふくしまつり、小野寺フェスタ等）
- ・認知症カフェ活動支援
- ・認知症サポーター養成講座支援（小学校向け寸劇）

【メンバー構成】

- ・チーム員：7名
- ・メンバーの属性：民生委員、社会福祉施設職員、認知症サポーター、地域協力者等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・小野寺北協議体設置に伴い、認知症になっても安心して暮らせるまちづくり「オレンジタウン」活動の一環として設置される。

【連携する機関】

- ・小野寺北協議体
- ・社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・協議体と一体化されていることで地域に根付いた普及活動が出来ている。
- ・メンバーに施設職員が加入していることで、地域の社会福祉施設との連携が図れている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・定例会に参加しやすいように定例会を協議体会議と同時にやっている。

【今後の展望・課題】

- ・活動内容の検討し、地域住民の関心を寄せる活動を行っていく。
- ・メンバーの増員を図り、より充実した活動を継続していく。

【アピールポイント】

- ・認知症サポーター養成講座を学校向けに行い、幅広い世代へ向けた普及活動が出来ている。
- ・協議体と一体化されていることから、地域に根付いた活動を展開できている。



佐野市

チームオレンジイオンモール佐野新都市

活動開始時期

令和4年9月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

地域の助け合い・見守り力強化

【活動内容・活動頻度】

- ・職域サポーターとして、買い物に来るかたや家族に対して、傾聴や見守り活動を行い、状況によっては包括につないでくださる
- ・

【メンバー構成】

- ・チーム員：17名
- ・メンバーの属性：イオンモール佐野新都市の職員と専門店の職員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・地域の主となる店舗から認知症サポーター養成講座の依頼があり、色々な利用者がいる中で、安心して買い物ができる場所としてほしいと話があったため。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター佐野市医師会
- ・チームオレンジさの

【効果】

- ・佐野市で作成した「認知症サポーターがいます」のステッカーを店舗に貼ることで、認知症への理解があることをPR。推進員や包括との連携もはかっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・業務優先の中での活動していただくよう声掛け。接客する上での対応方法をお伝えした。

【今後の展望・課題】

- ・認知症サポーターの養成を継続するなかで、チームオレンジステップアップ研修を開催し、チームオレンジを増やしていきたい。

【アピールポイント】

- ・認知症サポーター養成講座の受講者154人。理解のある方がたくさんいるショッピングモールです。



アルツハイマーデー記念イベントで対応例を紹介



小さいですが認サポステッカー貼っています



今年のアルツハイマーデー記念イベントもセントラルコートで開催しました

佐野市

チームオレンジ梅の里

活動開始時期

令和4年7月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

地域の助け合い・見守り力強化

【活動内容・活動頻度】

- ・佐野市はつらつ元気体操（週1回）
- ・介護予防教室、茶話会など

【メンバー構成】

- ・チーム員：17名
- ・メンバーの属性：町会（町会長がチームリーダー）

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・元々町会内での団結力が強く、町会サロン活動も積極的に行っていた。
- ・地域の見守り力強化（連携）を目的としチームオレンジへ。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・

【効果】

- ・町会以外との交流が多くなり、活性化に繋がる。
- ・チームオレンジ同士の交流で各々の活動を知る事ができる。
- ・顔のつながりがあることで、相談しやすい関係性ができる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・活動の自主性、地域の特性を尊重
- ・包括や推進員による定期的な訪問でサロン活動に役立つ情報提供をする。

【今後の展望・課題】

- ・楽しみながら活動に参加できる活動を継続
- ・山間地域であり、メンバーの高齢化に伴う移動の問題が生じる可能性がある。孤立化を防ぐ。

【アピールポイント】

- ・「困ったときはお互い様」の気持ちで、一人一人が積極的に活動に参加している。



鹿沼市

おれんじのめがね

活動開始時期

平成28年12月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

「ご本人とご家族が安心できる居場所づくり」
「ご本人が主役になれる場所」

【活動内容・活動頻度】

- ・「認知症の人を抱える家族の会」の開催
(原則毎月第4木曜日)
- ・認知症カフェ「いちごの花」の開催(原則毎月第3土曜日)

【メンバー構成】

- ・チーム員：約40名
- ・メンバーの属性：
本人、家族、介護者の会、地域住民ボランティア、
地域包括支援センター職員、高齢福祉課職員等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・チームオレンジの目的や活動内容に合致している、既存の介護者の会、認知症カフェを活用した。
- ・R5年11月に元々活動していたメンバーや支援活動に関心のある方等を対象にステップアップ講座を開催。

【連携する機関】

- ・介護者の会、地域包括支援センター、高齢福祉課、社会福祉協議会、サービス事業所、認知症疾患医療センター認知症初期集中支援チーム等。

【効果】

- ・本人、家族、支援者のつながりができている。
- ・介護者の会への参加がきっかけで必要な支援につながった。
- ・介護者の想いが集まり、新たな取り組みが生まれる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・関係機関への周知、連携調整。

【今後の展望・課題】

- ・認知症カフェのスタッフ不足により、本人、家族の話をゆっくりと傾聴できない。
- ・今後、関係機関への周知や、ステップアップ講座の開催等により、スタッフ、ボランティアの増員を図る。
- ・本人、家族、支援者からの声やアイデアを形にしていけるよう、連携体制を整えていく。

【アピールポイント】

- ・皆で寄り添い、共感しあい、本人と家族が安心できる居場所づくりに取り組んでいる。



日光市

稲荷町2丁目チームオレンジ

活動開始時期

令和6年5月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

「お互い様の精神」地域のつながりづくりを大事に

【活動内容・活動頻度】

- ・月に2回 町内の見守り訪問、声かけ活動の実施

【メンバー構成】

- ・チーム員：15名
- ・メンバーの属性：住民、民生委員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・平成25年より地区内の高齢者の見守り、訪問、声かけ活動を積極的に実施していた。認知症への支援に関して情報提供を行いチームオレンジ設置となった。
- ・令和6年5月にステップアップ講座を実施し立ち上げ。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・

【効果】

- ・訪問を待つ高齢者が増え、チームオレンジメンバー自体のモチベーションも上がった。
- ・チームオレンジが認知症当事者と包括支援センターつなぎ役となっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・必要時情報を市・地域包括支援センターへ連絡するようメンバーへ促している。

【今後の展望・課題】

- ・年に1回程度研修会を開催し、認知症に関するフォローアップを行い、認知症を地域で見守る意識を維持。
- ・

【アピールポイント】

- ・メンバー間のコミュニケーションが活発で、見守り訪問先での声かけも当事者へ寄り添った対応を行っている。

日光市

チームオレンジ平成町

活動開始時期

令和7年9月

類型

第2類型

目的・
コンセプト

平成町カフェ運営（みんながやりたいことを一緒に考える居場所）

【活動内容・活動頻度】

- ・平成町カフェ
- ・毎月最終日曜日 10:00～12:00
- ・お茶会、季節にあわせたイベント

【メンバー構成】

- ・チーム員：15名
- ・メンバーの属性：住民

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症があってもなくても地域で楽しく暮らすことを目的にH29より自治会のサポートを受けカフェがスタート。
- ・住民同士の見守りや暮らしのサポート活動が充実した地区でありチームオレンジ立ち上げを提案した。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・自治会・民生委員

【効果】

- ・参加メンバーの介護予防、生きがいづくり

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・定期的にサロン活動の訪問を行い、チームオレンジメンバーと顔のつながりづくりを実施。
- ・

【今後の展望・課題】

- ・年に1回程度研修会を開催し、認知症に関するフォローアップを行い、認知症を地域で見守る意識を維持。

【アピールポイント】

- ・メンバー間の交流も活発で、地域で協力体制がとれるチームです。

小山市

チームオレンジ ほのかさろん

活動開始時期

令和4年10月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症の方も介護家族も、地域住民の方も、介護の専門職も対等な立場で、自由に相談や情報交換をしながら、地域の専門機関へつないで「認知症になっても安心して暮らせる」まちづくりに貢献・活動する。

【活動内容・活動頻度】

- ・交流拠点のサロンにて、毎週月曜午前の部と午後の部に健康体操やカラオケ・囲碁・将棋・麻雀・手芸の自主参加、相談支援活動、おやつ作成等。
- ・外出支援（買物や花見等季節に応じた外出先選定）を認知症当事者、ケアラー、買い物弱者等の自宅送迎含め付き添う。

【メンバー構成】

- ・チーム員：46名
- ・メンバーの属性：介護家族世代から介護を受ける世代。既に認知症サポーター・キャラバンメイトとしてさろん活動していたメンバー。スタッフとして参加者として認知症当事者、地域住民、趣味の特技を持つ方、健康推進員、民生委員、施設・地域包括職員、認知症介護指導者等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・施設の地域貢献活動から発展させ、ボランティアからスタッフ募集しH29年2月認知症サロン開所。翌年、サロンメンバーで認知症サポーター研修を受講し修了。小山市のチームオレンジの主旨に賛同し、令和4年ステップアップ研修を開催後、認サポ交流拠点（チームオレンジ）として地域の関係機関にPRし活動を開始した。

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）、認知症地域支援推進委員、地域包括支援センター、民生委員
- ・地域の交番、消防署、スーパー、コンビニ、医療機関等
- ・市内の他オレンジサロン、趣味の会のリーダー等

【効果】

- ・スタッフにも若年性認知症の方がおり、参加者もスタッフも認知症という症状を持つ方への接し方を自然に身に付けることができた。地域で認知症の方も自身で買い物できるよう、自治会に交渉し訪問販売車庫を設け、買い物支援活動につなげることができた。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・サロン活動の他、地域の交番等の関係機関にチームオレンジとして「認知症になっても安心して暮らせる」まちづくりに協力していただくよう依頼した。
- ・メンバーには、当チーム含め、市（高齢生きがい課）や地域包括等の関係機関や相談窓口の連絡先を記載した独自の会員証をお渡しすることでチーム員の自覚を持てるようにするとともに、必要時に速やかな連絡等ができるようにしている。

【今後の展望・課題】

- ・「認知症になっても安心して暮らせる」まちづくりに貢献・活動することとして、認サポ交流拠点でサロン活動を続けつつ、メンバーの属する自治会や外出先でも認知症の方への支援の輪を広げられるようPR活動と地域の課題を見つけ、必要時、関係機関につなげる活動を続けたい。

【アピールポイント】

- ・隔月で広域地域に向けて、サロン活動と認知症の方と介護家族に関するコラムを載せたチラシを作成し回覧版にて広報活動をしている。
- ・認サポ交流拠点のサロン主宰は社会福祉法人であるが、施設内外で長くボランティア活動をする経験者と参加者が協働している。
- ・スーパー等で困っている認知症と思われる高齢者等には積極的に声をかけるとともに、市の安心安全メールで把握した行方不明高齢者情報などは自分事として捉え得る範囲での検索をするなど、認知症支援への意識を高め行動している。

小山市

チームオレンジ「オレンジカフェ」

活動開始時期

令和4年10月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症のご本人やご家族、認知症に関心のある方が、悩みを共有したり、好きな事をして過ごせる地域の集いの場

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第2・第4火曜日（月2回）
- ・茶話会、趣味活動を通して認知症の本人や家族に対して傾聴のほか、必要な情報の提供や相談。
- ・会報「ひとりで悩まず手をつなごう」2か月に1回発行

【メンバー構成】

- ・チーム員：27名
- ・メンバーの属性：認知症の当事者、家族、小山市介護家族の会、地域包括支援センター、その他認知症に関心のある方

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

代表者が他のオレンジカフェでチームオレンジを立ち上げた話を聞き、自分たちのオレンジカフェでも立ち上げたいと代表者から声があがった。その後、認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を開催し、チームオレンジを立ち上げた。

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・小山市介護家族の会

【効果】

- ・認知症当事者の閉じこもり予防
- ・介護家族が悩みを共有できる

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

市委託による認知症カフェということもあり、認知症地域支援推進員・包括職員が不定期ではあるが様子を見に行き、把握した問題や相談には、速やかに対応できるようにしている。

【今後の展望・課題】

・市内全域を対象にした誰でも利用できるオレンジカフェではあるが、そのわりに利用者が少ない。新規利用が乏しいため、地域への周知・啓発が必要。

【アピールポイント】

- ・住まいの地域を限定せず、また認知症の有無に関わらず、誰でも気軽に参加できる。
- ・介護経験のある方が参加されていて、仲間同士が相談しやすい環境にある。

小山市

いきいきふれあいセンター「おおや」

活動開始時期

令和4年11月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

概ね65歳以上の方を対象に趣味や体操、踊りやカラオケ等介護予防を行う為の事業。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週月曜日 10時～
- ・活動内容：様々な趣味・百歳体操・介護予防教室・フレイル予防の為の講話や活動の実施。

【メンバー構成】

- ・チーム員：26名
- ・メンバーの属性：民生委員・健康推進員等で構成された援助員を中心に活動している。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・いきいきふれあいセンター事業を行っており、元々から介護予防やフレイル予防についての関心が高く、認知症高齢者の増加の社会的背景や地域での支え合う必要性を説明すると問題意識がさらに高まり、チームオレンジとしてやっていくことになった。

【連携する機関】

- ・会場を提供している民間事業者
- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員 ・健康推進員 ・地域ボランティア

【効果】

- ・認知症であってもなくても受入れ、特別視せず、差別することなく、対応する意識の地域住民が増えている。認知症に関する不安、心配が生じた際、速やかに認知症地域支援推進員に相談できる体制がとれている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・高齢生きがい課と地域包括支援センターとの情報共有
- ・地域の高齢者が閉じこもらず地域とつながりを持っていけるよう、興味をもって楽しめるような行事を企画している。

【今後の展望・課題】

- ・コロナ禍以降、利用者が減少傾向にある
- ・認知症の方を自然に受け入れ、一緒に楽しんでいくことのできる場として、より多くの地域の方に利用してもらう。
- ・心のバリアフリー化が地域住民にも広がっていく事が出来るようにできる範囲の身近なことから活動していく。

【アピールポイント】

- ・チーム員は、以前から認知症の方への早期の気づきやサポートができていたが、チームオレンジとして発足後、より出来るようになった。チームワークが抜群で、明るい雰囲気である。

小山市

間々田地区 オレンジカフェ ひなたぼっこ

活動開始時期

令和4年11月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

地域の人々が認知症に関心を持ち、在宅の認知症の人・家族の方と交流を通じて、認知症の人・家族への援助を目的とする。

【活動内容・活動頻度】

- ・月2回 第1・第3水曜日 10時～11時30分
- ・傾聴（おしゃべりを楽しむ）
- ・介護予防運動のゲーム、歌を歌う、折り紙

【メンバー構成】

- ・チーム員：10名
- ・メンバーの属性：認知症キャラバンメイト・サポーター

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

地域に根差した活動を広げるために、認知症の勉強会を開催しながら、認知症を支えるための行動の範囲を広げるために設置しました。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・市（高齢生きがい課）

【効果】

口コミで少しずつ参加者が増えている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

認知症に関心のある方には、積極的に声をかけお誘いしている。

【今後の展望・課題】

コアメンバーが高齢になってきているので、新しいメンバーを育てることが課題。
地域のスーパー、商店、金融機関、コンビニ、美容院、ドラッグストア等に手づくりチラシを持参し直接、依頼にうかがうことで協力体制を作っていきたい。

【アピールポイント】

自分のできること・得意なことを活動に取入れ、参加者に楽しんでもらえる内容の企画をし、コアメンバーらも無理なく自分自身のためにチーム活動が続けられている。

小山市

百歳体操 栗林

活動開始時期

令和5年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

介護予防、フレイル予防、社会参加を目的に活動を行う。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週金曜日 10時～
- ・活動内容：栗林荘（施設）の場を借り毎週百歳体操を実施。地域住民だけでなく地域外でも受け入れている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：16名
- ・メンバーの属性：代表が男性1名、女性15名で構成。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

元々、介護予防及び認知症介護に対して関心が高かった。また、参加者の中に認知症介護者があり、より理解を高めたいという要望もあって立ち上げに至った。

【連携する機関】

- ・自治会長
- ・民生委員
- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認知症の理解が深まり、すでに仲間である認知症の方や新たに加わった方（がいたとしても）と助け合っていく姿勢ができた。
- ・認知症に関する不安、心配が生じた際、速やかに認知症地域支援推進員に相談できる体制がとれている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・高齢生きがい課と地域包括支援センターとの情報共有
- ・参加者が互いに近況を情報交換等することによるコミュニケーションを大切にしている。

【今後の展望・課題】

- ・現在、チーム員を中心にした認知症の方に対する心遣いの視野を、地域全体にさらに広げていくこと。

【アピールポイント】

- ・アットホームな雰囲気地域の方も地域外の方も分け隔てなく気軽に参加できる明るい雰囲気のチームである。
- ・コミュニケーションを大切に交流から互いに学べる事が多くある。

小山市

ヘルスエクササイズ21

活動開始時期

令和5年6月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

定期的に体操を行う事により筋力低下と介護予防に努めている。終了後のメンバー同士の交流もとても大切にしている。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第1・第3火曜日 10時～
- ・活動内容：百歳体操・ウィズまごダンスを参加者で実施。活動終了後は地域のカフェでお茶会を楽しむ。

【メンバー構成】

- ・チーム員：女性11名
- ・メンバーの属性：何十年と馴染みの関係が出来ているメンバーで構成されている。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・代表は居宅ケアマネで認知症や介護について、日頃より仲間にアドバイスをしていた。メンバー全員が勉強熱心で意識が高く、認知症支援についてもステップアップをしたいという事から立ち上げに至る。

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認サポ受講が刺激となり、ステップアップ講座では積極的な意見交換となって、地域の認知症の方への支援意識が高まった。
- ・認知症に関する不安、心配が生じた際、速やかに認知症地域支援推進員に相談できる体制がとれている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・活動時以外も、仲間同士で交流を持つようにし互いに支え合う関係づくりを意識していくこと。
- ・活動終了後の茶話会を大切にしており、それも含め楽しみにしているので、活動が続いている。

【今後の展望・課題】

- ・チームが仲間として元々まとまっているため、新たな参加者の受入れが難しい。
- ・新規参加者を受入れる方向に徐々にシフトチェンジしていきたい。

【アピールポイント】

- ・気の合うメンバーで構成された明るく和やかなチームである。馴染みの関係が出来ているので認知症になったとしても互いに変わらず助け合っていく結束がある。

小山市

「いきいきふれあいセンターおもい川」

活動開始時期

令和5年6月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

小山市の委託を受けて、高齢者の皆さんが要介護状態にならず、いつまでも生き生きと生活ができるよう活動を行っている。特に一人暮らしの方や、外出する機会が減ってしまった方の参加を募っている。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週水曜日 10:00～
- ・活動内容：健康講話、体操、遊びりテーションなど認知症、フレイル予防のための活動。認知症予防を含めた介護予防に繋がる活動を実施。

【メンバー構成】

- ・チーム員：17名
- ・メンバーの属性：民生委員、健康推進員、地域の介護予防活動に関心のある方。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

・いきいきふれあい事業を行っており、参加者の中には認知症の方もいる。市内の中でも高齢化率が高く認知症予防への関心が高いこともあって、メンバー（援助員）が家族から相談にのる事もある。以前から介護予防事業等で関わりがあった包括職員からチームオレンジの説明を受け、主旨に賛同し立ち上げに至る。

【連携する機関】

- ・地区公民館民館
- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員

【効果】

- ・認知症予防、フレイル予防など介護予防となる。
- ・認知症の方を地域で見守る意識が高まり、早期発見早期治療が期待できる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・市（高齢生きがい課）や包括、民生委員、地区公民館との情報交換、情報共有。
- ・話しやすく、明るく楽しい雰囲気づくりに努める。
- ・認知症への理解を深めるため、定期的に勉強会を行う。

【今後の展望・課題】

- ・チームメンバー（援助員）が高齢化しており、マンパワーが不足している。
- ・市内でも高齢化率が比較的高い地域であり、要介護者が増加傾向にあるとともに本事業の参加者が減っている。
- ・そのため、地域住民にチームオレンジ等の支え合い活動の必要性を啓発し、理解を得ていくことに取り組んでいきたい。

【アピールポイント】

- ・「物忘れがあってもいいじゃないか！」という精神で、認知症になっても明るく、楽しく、元気に活動する事をモットーとしている。
- ・アットホームな雰囲気である。
- ・移動手段の資源として、市デマンドバスを利用できる。

小山市

歩々歩の会

活動開始時期

令和5年7月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

自分たちで計画しウォーキングを行い介護予防・フレイル予防・社会参加をする。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第2・第4火曜日（月2回）
- ・月1回打ち合わせをし行くところを決め、月1回は県内各所を歩いている

【メンバー構成】

- ・チーム員：6名
- ・メンバーの属性：認知症予防教室のOB自主グループ（ウォーキング）のメンバーで結成された

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・市開催の認知症予防教室（ウォーキング）に参加。教室修了後も自主グループを作り活動をしている。認知症にも関心が高く、チームオレンジの主旨に賛同し発足に至る。

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・地域で見かけた認知症と思われる方に声をかけるようになった。
- ・認知症に関する不安、心配が生じた際、速やかに認知症地域支援推進員に相談できる体制がとれている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・高齢生きがい課と地域包括支援センターの情報共有
- ・月に2回の活動だけでなく日頃の交流や情報交換で親睦を図る

【今後の展望・課題】

ステップアップ講座の事例検討では、メンバーが様々な事例を出し合い有意義に話し合いができた。定期的にこのような機軸を設け、チームオレンジとしての意識を高めていく。

【アピールポイント】

- ・教室修了後の自主グループ。活動日以外も交流されていて、仲良く和気あいあいで雰囲気良く、助け合いの意識が高い。

小山市

「小薬いきいきクラブ」

活動開始時期

令和5年10月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

老人クラブの活動をベースとしている。活動の三つの柱は「健康」「友愛」「奉仕」。地域を豊かにして、高齢者の生活を豊かで楽しくし、明るい長寿づくりを目指す。認知症になっても住み慣れた地域で生活ができる事を大切にしている。認知症の方を積極的に受け入れ、関わり、できる範囲のサポートを地域でしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週木曜日 8:00～
- ・活動内容：健康講話、百歳体操、遊びりテーションなど認知症、フレイル予防のための活動。地域の清掃。地域との交流。公民館活動への参加、小学校との連携など。

【メンバー構成】

- ・チーム員：16名
- ・メンバーの属性：民生委員、地域の老人クラブ活動に賛同される方。小薬自治会住民。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

・老人クラブ事業を行っており、参加者の中には認知症の方もいる。市内の中でも高齢化率が高く認知症予防への関心が高いこともあって、メンバーが家族から相談にのる事もある。以前から介護予防事業等で関わりがあった包括職員からチームオレンジの説明を受け、主旨に賛同し立ち上げに至る。

【連携する機関】

- ・地区公民館民館
- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員
- ・自治会

【効果】

- ・認知症予防、フレイル予防など介護予防となる。
- ・認知症の方を地域で見守る意識が高まり、早期発見早期治療が期待できる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

・皆、役割を持つことを大切にし、全員が同じ目線で同じ目的をもって活動できるようにしている。・チームオレンジの活動を自治会にもわかってもらうようにしている。・市（高齢生きがい課）や包括、民生委員、地区公民館との情報交換、情報共有。・認知症への理解を深めるため、定期的に勉強会を行う。

【今後の展望・課題】

- ・チームメンバー（援助員）が高齢化しており、マンパワーが不足している。
- ・市内でも高齢化率が比較的高い地域であり、要介護者が増加傾向にあるとともに本事業の参加者が減っている。
- ・自治会として老人クラブ活動に関心を持ってもらえているため、今後、自治会内にチームオレンジの構想を広める予定である。

【アピールポイント】

- ・気心の知れた顔見知りのメンバーで構成されており、送迎の乗り合いなど協力体制がとれている。
- ・男性メンバーが多く、男女問わず参加しやすい内容を企画している。

小山市

中久喜 ひまわり会

活動開始時期

令和5年12月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

介護予防・フレイル予防・社会参加を目的に地域で活動を行う。認知症の方も受け入れ関わりできる範囲でのサポートをしていく。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週月曜日 午前9時30分～
- ・中久喜公民館にて百歳体操を実施
- ・

【メンバー構成】

- ・チーム員：18名
- ・メンバーの属性：自治会長夫婦がとても強力的なチームで地域住民で構成されている

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・介護予防及び認知症介護に対して関心が高く、認知症への理解を高めたいとの思いがあり立ち上げに至った
- ・

【連携する機関】

- ・自治会
- ・民生委員
- ・健康推進員
- ・市（高齢生きがい課）
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認知症の理解が深まり、地域での見守りにも繋がっている
- ・認知症に関する不安や心配事が生じた際、速やかに認知症推進員に相談する体制が取れている

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・高齢生きがい課と地域包括支援センターとの情報共有
- ・参加者が互いに状況を情報交換などすることによるコミュニケーションを大切にしている

【今後の展望・課題】

- ・現在、チーム員を中心にした認知症の方に対する心遣いの視野を、地域全体にさらに広げていくこと
- ・

【アピールポイント】

- ・チームは地域（自治会）で成り立っているため見守りがしやすい

小山市

下梁友愛サロン「にじ」

活動開始時期

令和6年2月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

誰もが気軽に交流できる場を作り、認知症があってもなくても過ごしやすい地域を作る。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第2・第4木曜日 10時から
- ・活動内容：月に2回、健康講話を聞いたり、スポーツや小物作りなどの活動をしている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：15名
- ・メンバーの属性：70～80代の方が多く活動されているが、最近は若い方もメンバーに加わっている。登録メンバーは50人以上いるが、コアメンバーでチームオレンジを結成した。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・H31年1月、下梁自治会から健康推進員、民生委員が主体となり立ち上がった。R5年9月、認知症サポーター養成講座を受講後、チームオレンジの趣旨に賛同しR6年2月ステップアップ講座を受講しチームオレンジが結成された。

【連携する機関】

- ・下梁自治会
- ・民生委員
- ・高齢生きがい課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認知症に気づくことができ困りごとがあれば包括に相談するなど連携先が分かった。
- ・認知症について学び理解することができた。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・毎回の活動が飽きずに継続できるよう内容を工夫している。
- ・民生委員が地域を回り、地域の方のことを気にかけている。

【今後の展望・課題】

- ・家族から相談があれば関わりたいと思っているが、相談がないとどこまで関わっていいのか悩んでしまう。
- ・今後も民生委員にパイプ役になってもらって相談していく。

【アピールポイント】

- ・メンバーは仲が良く和気あいあい楽しみながら活動している。
- ・全員が役員のつもりで協力し合って活動している。

小山市

羽川南ふれあいクラブ

活動開始時期

令和6年3月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

先人が築き上げた羽川南ふれあいクラブの伝統を受け継ぎ、ゴミ拾いなどの社会奉仕活動を通して地域に貢献する。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：グランドゴルフは月・水・金、麻雀は隔週水・金、年2回の旅行、思桜会の行事への参加、月1回（第1火曜日）の定例会。
- ・活動内容：グランドゴルフや麻雀、草取りなどの活動をしている。月1回の定例会では防災や交通安全教室などを含め、様々な講座を受講している。

【メンバー構成】

- ・チーム員：24名
- ・メンバーの属性：羽川下三：南の自治会で老人会活動を行っているメンバーで結成。60～80代の方が中心で活動されており平均年齢は79歳。男性34名、女性10名、計44名が在籍されている。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症について学びたいとのことで、R5年12月認知症サポーター養成講座を受講後、チームオレンジの趣旨に賛同し、R6年3月ステップアップ講座を受講しチームオレンジが結成された。

【連携する機関】

- ・羽川下三・南自治会
- ・高齢生きがい課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・地域での交流や支え合いが大切なことが分かり身近な人の困りごとがあれば包括につなぐことを学んだ。
- ・同じ隣保班の人のことは分かるので独居で認知症の人がいたら地域みんなで見守っていく姿勢ができた。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・日頃から優しい声かけや何気ない挨拶を大切にしている。
- ・お互い忘れないよう話し合うことを心がけている。本人への声掛けが難しい時は本人を支える家族を支えられるようにしている。

【今後の展望・課題】

- ・月1回の定例会でメンバー同士元気な顔を見せるようにしていく。
- ・クラブの中で話をすることが交流や気分転換につながっているため、今後もメンバー間のコミュニケーションを1番に考えていく。

【アピールポイント】

- ・スローガン『みんなで 楽しく 元気よく』をモットーに活動している。

小山市

サロン・ド・扶桑

活動開始時期

令和6年3月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

みんなが主役。
誰でも参加できるホッとできる居場所。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第1・第3水曜日 10時から
- ・活動内容：月に2回、お茶のみや体操、輪投げなどのゲームなどを行っている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：12名
- ・メンバーの属性：前身は、昭和50年に立ち上げた『扶桑生活学校』。メンバーは80～90代。認知症の方も在籍されている。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・月に2回集まって活動していたが、R4年9月認知症サポーター養成講座を受講。その後、チームオレンジについて説明し趣旨に賛同され、R6年3月ステップアップ講座を受講しチームオレンジが結成された。

【連携する機関】

- ・扶桑自治会
- ・高齢生きがい課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・自宅に引きこもることなく行く所があり、みんなと話ができて楽しく過ごすことができています。
- ・認知症について学び、お互いに隠し事はせずみんなで支えあうことを確認できた。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・お互いに無理をしない
- ・お互いに声を掛け合う。

【今後の展望・課題】

- ・メンバーが高齢で、公民館まで歩いて行けない方や自宅での生活が難しい方などが増え人数が減っている。
- ・今後の活動が継続できるか心配される。声掛けをして人数を増やしていきたい。

【アピールポイント】

- ・『扶桑生活学校』で何十年も一緒に過ごしてきた仲間と結成されたチーム。認知症と診断されたメンバーもいるが、みんなで互いに支え合いながら、お互い楽しく活動することができている。
- ・誰が来ても温かく迎え入れてくれる雰囲気がある。

小山市

三峯100歳体操クラブ

活動開始時期

令和6年3月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症当事者も地域住民も、共に助け合い、自然と声をかけ合いながら、
「自分らしく暮らし続けられる地域づくり」に貢献できるよう活動する。

【活動内容・活動頻度】

- ・交流拠点の公民館にて毎週月曜午後に100歳体操と輪投げ、茶話会などを実施。
- ・認知症当事者、独居高齢者等の声かけ、見守り支援を行っている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：14名
- ・メンバーの属性：自主グループのため参加者の中で、まとめ役をしてくれる代表がいる。地域住民、民生委員、認知症当事者、等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・運動や交流の場として100歳体操クラブを立ち上げ以降、自然に声かけや見守り支援が出来ていた。そこで、チームオレンジの主旨を説明したところ賛同いただいた。令和6年ステップアップ研修を開催後チームオレンジとして活動を開始した。

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、民生委員、居宅介護支援事業所 等
- ・交番、消防署、スーパー、コンビニ、医療機関 等

【効果】

- ・自然に出来ていた近所の認知症当事者や独居高齢者の声かけ、見守りから、外出先での気になる高齢者に対する支援にまで広がった。認知症の関心が強まり、メンバーの意識も高まった。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・これまで自然に行っていたことを大切に、メンバーが何に関心があるか、どういう活動をしたいか相談しながら後方支援している。
- ・チーム員としての自覚を持てるよう年1回はフォローアップをしている。

【今後の展望・課題】

- ・「認知症になっても自分らしく安心して暮らせる」地域づくりに貢献できるよう活動を続けつつ支援の輪が広げられるようPR活動をしていく。
- ・メンバーの入れ替わりがあるため、チームオレンジとしての役割や自覚を学ぶ機会を定期的で開催していく。

【アピールポイント】

- ・代表を中心としてとてもいい雰囲気です活動できている。話しやすい、相談しやすい関係で新しい方の受け入れ体制も出来ている。
- ・自主グループではあるが個人で認知症講演会や介護予防教室等に積極的に参加し学んだ内容をメンバーに伝えることもできている。
- ・認知症を自分事として捉え意識の高い活動ができている。

小山市

夢紡ぐ家 ～たむらさんち～

活動開始時期

令和6年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

わいわいがやがや楽しいおしゃべりをしませんか？
皆さん気軽においでください。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：毎週火曜日・金曜日
- ・活動内容：認知症カフェとして活動。手芸や絵手紙を中心に本人がやってみたいこと、興味のあることができるよう曜日で様々な制作を行っている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：16名
- ・メンバーの属性：認知症の本人や家族、地域住民、近隣の市町の方も参加されている。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症カフェとして活動していたが、チームオレンジの趣旨を説明し賛同を得られ、令和6年4月、認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を受講しチームオレンジ結成となった。

【連携する機関】

- ・特別養護老人ホームきぬの里
- ・高齢生きがい課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認知症になっても支援してくれる仲間がいることがわかった。
- ・オレンジカフェに通うことで家に引きこもらず一人での時間を少なくしお互いに助け合うことができています。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・必要時には高齢生きがい課や地域包括支援センターなどの専門機関との連携体制がとれている。
- ・募集をしなくても人が人を連れてきてくれる。

【今後の展望・課題】

- ・小山市の出前講座を年に3回行いたい。これから生活していく上で、自分にとって何が必要なのかといった情報を集めていく。
- ・人生会議を行い、自分自身の今後をどうしたらいいのかわかる、考える機会・体制を作りたい。

【アピールポイント】

- ・誰でも自由に気楽に楽しく出入りができる。誰が来てもいい雰囲気になっている。
- ・一人で困りごとを抱え込むことがないよう気軽に相談や話ができる雰囲気がある。

夢紡ぐ家
～たむらさんち～
地域貢献事業



社会福祉法人くすの木会



小山市

いきいきふれあいセンター寒川

活動開始時期

令和6年5月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

いきいきふれあい寒川に参加する中で、認知症となっても、いきいきふれあいに参加し続けることができる場所となることを目的とする。

【活動内容・活動頻度】

- ・毎週木曜日10:00～11:30開催
- ・ボランティアによる笑いヨガ、民謡、フラダンス、イチゴ狩
- ・出前講座で生活に密着した内容を学習している

【メンバー構成】

- ・チーム員：24名
- ・メンバーの属性：いきいきふれあい参加者、健康推進員
民生委員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症を知ることから始め、認知症の本人となった場合に接してもらいたいことに配慮し、地域に密着した存在として設置しました。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・市（高齢生きがい課）

【効果】

- ・認知症の本人との関わりは少ないが、メンバー一人ひとり身近な問題として捉えている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・いきいきふれあいに参加している参加者に変化があっても声を掛け、一人にさせないようにする。

【今後の展望・課題】

- ・参加者の人数が減少傾向にある。見守る立場の者の意識付けだけではなく、見守られる立場の者、人のアプローチ、周知が必要。

【アピールポイント】

寒川地区のみのチームであります。
フォローアップ講座にてメンバー間で意見交換し、見守る意識やメンバーとしての自覚が深まっている。
定期的に包括支援センターも関わり、地域に根差した存在として連携、協力体制にある。

小山市

穂の香苑

活動開始時期

令和6年10月

類型

第3類型

目的・ コンセプト

法人職員が住む地区の中で、チームオレンジの知識を活かし、職員それぞれが地域の中で気になる対象者に活動していくことを目的とする。

【活動内容・活動頻度】

- ・職員の属する居住地域の自治会等で認知症に関する周知活動
- ・穂の香苑内の入居者、利用者、職員間で訪問販売誘致活動
- ・毎週木曜、金曜他、催事

【メンバー構成】

- ・チーム員：89名
- ・メンバーの属性：法人職員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・チームオレンジほのかさろんの活動を応援し、職員間に広げる為

【連携する機関】

- ・市（高齢生きがい課）
- ・包括支援センター
- ・各団体、個のボランティア

【効果】

- ・訪問販売誘致の維持と交流（地域の他事業所）

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・地域と共に知識習得
- ・催事、行事での地域住民、ボランティア、団体との交流の仕方

【今後の展望・課題】

- ・平成5年より続くボランティアをずっと続けている方も歳をとり、次世代につなげる手法としてのチームオレンジとして活動していく

【アピールポイント】

- ・施設のもつノウハウを地域にも広げ、地域の中で職員がチームオレンジとして認知症の方々の暮らしやすさに貢献してまいります

小山市

扶桑県営ふれあいサロン

活動開始時期

令和6年10月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

誰もが気軽に歩いて通える集いの場。認知症になってもならなくても自分らしく安心して暮らし続けられるようみんなで見守り助け合えるよう活動している。

【活動内容・活動頻度】

- ・活動日：第1・第3金曜日 10時から
- ・活動内容：月2回、輪投げやカラオケなどの活動を行っている。

【メンバー構成】

- ・チーム員：9名
- ・メンバーの属性：扶桑県営住宅の住民、地域住民。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

・扶桑県営住宅は高齢者世帯が多く、認知症や足腰が弱くなって歩けない人も多くなっているため認知症について学びたいとのことで令和6年6月認知症サポーター養成講座を受講。チームオレンジについて説明し趣旨に賛同され令和6年10月にステップアップ講座を受講しチームオレンジが結成された。

【連携する機関】

- ・扶桑県営住宅自治会
- ・高齢者生きがい課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・認知症について学ぶことでお互い様の気持ちで困っている時には声を掛け合ったり、支え合って活動をすることができている。
- ・日頃から何でも気軽に話せる関係を作ることができている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・日頃から地域の方と交流や情報交換をしている。
- ・月2回の活動はメンバーが楽しめる内容を考えている。

【今後の展望・課題】

- ・認知症について学び、認知症になってもならなくてもみんなで楽しく助け合って生活できるよう、集いの場を継続していく。
- ・参加人数を増やせるよう貼り紙や回覧板での周知に努めている。

【アピールポイント】

- ・みんなで明るく楽しく活動している。どなたでも参加OKです。

真岡市

オレンジパートナー

活動開始時期

令和3年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症の方の見守り・傾聴

【活動内容・活動頻度】

- ・月に1回、認知症の方の自宅に訪問し傾聴する
- ・認知症カフェの運営
- ・そのほか、認知症関連事業への協力

【メンバー構成】

- ・チーム員：17名＋認知症カフェ参加者たち
- ・メンバーの属性：認知症サポーター養成講座ステップアップ講座を受講したボランティア

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症の人の見守りの場が必要
- ・認知症カフェに來れない人がいる
- ・介護サービスの利用にもなかなか結び付かない

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター、市役所
- ・認知症疾患医療センター
- ・オレンジサポーター

【効果】

- ・月1回の訪問で状況がわかり、適正な時期に介護保険サービスに結び付けられる
- ・自宅に来てもらうことで本人も楽しく過ごすことができ、認知症の進行を予防できる

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・年2回の定例会を実施し、うち1回は勉強会を行い、ボランティアの活動のフォローをしている。

【今後の展望・課題】

- ・認知症カフェや介護予防教室などに繋げられるようにしていきたい。

【アピールポイント】

・認知症カフェを運営しているボランティアが中心となって活動している。普段は介護予防教室や認知症カフェなどで活動し、依頼があった際に訪問・傾聴を行っている。認知症について学びたいという意欲が高く、常に切磋琢磨し、ボランティア同士で情報交換しながら活動している。



大田原市

チームオレンジ(大田原)

活動開始時期

令和5年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

- ・認知症になっても安心して自分らしく暮らし続けられる地域づくり
- ・認知症カフェでは、本人の「やりたい」を実践していく

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェ(まちなかオレンジカフェ・大学オレンジカフェ)への参加(月1回/2カ所)
- ・国際医療福祉大学 風花祭in認知症カフェへの参加(年1回)
- ・認知症月間等の認知症普及啓発活動への参加(年1回)
- ・認知症サポーターステップアップ講座修了者研修会への参加(年2回)

【メンバー構成】

- ・チーム員:47名(うち実働人数は8名)
- ・メンバーの属性:認知症サポーターステップアップ講座修了者及びステップアップ講座受講希望者

【連携する機関】

- ・大田原市役所 高齢者幸福課
- ・地域包括支援センター(中央・西部・東部)
- ・国際医療福祉大学
- ・地域で活動しているボランティア等

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・認知症カフェ終了後には、チームオレンジミーティングを毎回開催し、反省点や気付いた事など意見交換、認知症カフェでの開催内容について話し合いの機会を設けている。

【効果】

- ・認知症カフェへ参加する事で、当事者・介護者同士と繋がりを持ち、認知症本人や家族の介護負担の軽減や孤立防止・引きこもり予防に繋がっている。人と交流する事で日頃のストレス発散になっているとの声に参加者から聞かれた。

【今後の展望・課題】

- ・チームオレンジの活動を通して本人や家族の想いを積み上げていき、やりたい事を一緒に企画運営する。徐々に本人や家族も企画や準備に参加できるようにしていきたい。また、認知症月間の普及啓発も一緒に実施していきたいと考えている。

【課題】・実際に活動できる方が少ない。・チームオレンジのみでの自立した活動は難しい

【アピールポイント】

- ・認知症カフェでは、チームオレンジが本人や家族に寄り添い、「声」を丁寧に集めています。
- ・とにかく参加者全員が一丸となって楽しんでいるカフェです。

矢板市

チームオレンジいこいず

活動開始時期

令和6年6月

類型

第1類型

目的・ コンセプト

- ・認知症になっても住み慣れた地域、故郷である矢板市で暮らし続けるような居場所
- ・他世代間の交流場所と機能し、生きがいを図る

【活動内容・活動頻度】

- ・毎月第2金曜日
- ・飲み物とお菓子を食べながら茶話会
- ・体験型プログラム

【メンバー構成】

- ・チーム員：6～7名
- ・メンバーの属性：オレンジメイト2名
地域のボランティア4～5名

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・地域のボランティアや常設型サロン参加者から、みんなで楽しく集まる場所としてここには必要だ！と声が上がって設置した。

【連携する機関】

- ・矢板市社会福祉協議会
- ・矢板市
- ・矢板市地域包括支援センター

【効果】

- ・MCIの人が友人と参加したことをきっかけに包括の支援に繋がった。
- ・ボランティアとして役割を持つだけでなく、参加者として通うことが頑張る糧になっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・来た人同士が知り合いではなくても、その場で顔見知りになり楽しめる雰囲気づくり

【今後の展望・課題】

- ・ここに来れば誰かがいて、誰かと繋がれるというところを認知症の本人や家族にもっと浸透させていきたい。

【アピールポイント】

- ・五感を刺激する楽しい体験型プログラムが満載！笑顔で「あの頃」を思い出しながら、交流の輪が広がる憩いの認知症カフェです。

矢板市

なんくるないさあ

活動開始時期

令和6年7月

類型

第1類型

目的・ コンセプト

- ・みんなでやればなんくるないさあ（どうにかなるさ）をコンセプトにしている。
- ・認知症であってもなくてもみんなで地域で暮らせるようにしていきたい。

【活動内容・活動頻度】

- ・みんなで楽しく談笑会
- ・悩み相談
- ・生活のスキルを身に着ける勉強会

【メンバー構成】

- ・チーム員：7～9名
- ・メンバーの属性：オレンジメイト4名
ボランティア5～6名

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・チームの1人が認知症について学んだ内容を他のスタッフにも必ず共有をしていた。その後スタッフから自分たちでも何か力になりたいと話が出て、立ち上げた。

【連携する機関】

- ・認知症の人と家族の会
- ・矢板市地域包括支援センター
- ・矢板市

【効果】

- ・地域に居場所があるという安心感が広まっている。
- ・介護に悩んでいる人の相談場所となっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・誰もが気軽に参加しやすい場所づくり
- ・地域の皆さんと一緒に作り上げていく居場所

【今後の展望・課題】

- ・ボランティア中心ではなく、ボランティアが見守りながら参加者同士が中心となって活動や運営の手伝いができるようになることが理想的。

【アピールポイント】

- ・まとまりやすい地域で積極的に地域の人が力を貸してくれてみんなで作っている、どなたにも温かいみんなの居場所です。

目的・コンセプト

オレンジドアにしなすは、認知症の人が主役、お互いさまで学び合い、支え合うボランティア団体です。メンバーの話し合いをもとに、やりたいことを行い、地域に向けた勉強会の企画運営やRUN伴などを通し、安心して認知症になれるまちづくり、認知症の正しい理解を地域へ広めています。

【活動内容・活動頻度】

- ・毎月第1,3火曜日10:00～12:00 参加費：200円（お茶代に非ず）・会場：那須塩原市ボランティアセンター、他
- ・メンバーの自主性を大切に。
- ・毎回、身体を動かし、声を出し（話す、歌う）、次にやりたいことの話し合いや情報共有をメンバー全員で行っている。

【メンバー構成】

- ・メンバーの属性：当事者（認知症、MCIの診断を受けている人）、物忘れが心配な人、その家族（元家族含む）、市民
- ・当事者含む市民が約20名
- ・地域包括、社協の専門職が2,3名
- ・地域に縛られず、他市町からの参加も有り

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

2017年「第4回にしなすケアネット」で、デイサービスと違う認知症の人が集う場があったらいいなという提案に、当事者を交えた委員会を開催し、当事者の声を聴き、仙台の丹野智文さんの「おれんじドア」を体験して、2018年に活動開始。

【連携する機関】

- ・市内（西那須野地区）の地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会地域支援係、生活支援コーディネーター
- ・入所施設（サ高住）、病院リハビリ職など

【効果】

- ・本人や家族が持っていた認知症へのネガティブなイメージが払拭され、閉じこもりからの解放、暮らしが前向きになった。企画したイベント等を経験し、仲間意識が深まり、達成感を味わった。仲間とのつながりが安心感と脳の活性

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・全員がボランティア＝できることは自分です、お互い様
- ・ボランティア団体として登録、ボランティア保険全員加入
- ・メンバー全員の声を聴く、メンバーで共有して行動する
- ・やりたいことをする。選択の自由。役割・居る甲斐のある場

【今後の展望・課題】

- ・コロナ禍の間もできる限り、場を開いてきましたが、コロナ禍で、病院や施設に行き、戻ってこないメンバーが複数いました。
- ・医療機関や自治体との連携の不足 ・認知症の「予防」より「備え」の学び、認知症を正しく学ぶ市民（専門職含む）への情報発信
- ・RUN伴や認知症の勉強会、認知症サポーター養成講座など、地域へ、市民へ「認知症の誤解を理解へ」つなげていく活動が大切

【アピールポイント】

- ・恒例になっている「花見」「RUN伴」「紅葉狩り」「Xmasケーキ作り」「認知症の勉強会公開講座」などをメンバーが企画運営。
- ・活動内容から見ると「認知症カフェ」より「ミーティングセンター」的な場かも ・介護者の交流や相談は市内に複数ある「ケアラズカフェ」へ（どちらも「ソーシャルケアワーカー集団しもつかれいど」主催） ・委託事業や補助事業ではない市民主体の自主事業

那須塩原市

笑温カフェ in くるる

活動開始時期

令和3年6月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

黒磯のまちなかにある認知症カフェ
認知症になっても自分らしく、一人できないことも、みんなでやってみる！

【活動内容・活動頻度】

- ・第2、第4木曜日10時～11時30分
- ・家族のありがたいためになるお話
- ・当事者による体操、当事者のお話
- ・ミニ講話（薬剤師、福祉用具、栄養士など）
- ・レクリエーション、ゲーム、焙煎コーヒーあり

【メンバー構成】

- ・チーム員：6名の地域住民ボランティア、参加者20数名
- ・メンバーの属性：那須塩原市介護予防サポーター養成講座、介護予防リーダー養成講座、認知症サポーター養成講座受講生

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・令和3年～
- ・認知症カフェのない地域に住民ボランティア主体で設置できないかと地域包括支援センター職員等と打合せを実施。
- ・協力者を集めるため模擬カフェ等を開催し6月オープン。

【連携する機関】

- ・那須塩原市高齢福祉課
- ・那須塩原市社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター
- ・介護福祉施設、福祉用具販売・住宅改修事業所 等

【効果】

- ・口コミで少しずつ参加者が増えた。
- ・介護サービス以外の住民によるサービス提供
- ・地域支援事業（サービスB）として実施している。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・メンバーが送迎等を行うため、事業保険に加入している。
- ・季節を感じてもらうレクリエーション、外出を実施。
- ・食べたい、行きたい、やってみたいを大事にしている。

【今後の展望・課題】

- ・たくさんの笑顔、家族の安心できる場所が笑温カフェ。多くの仲間と出会って、一人じゃないことを実感してほしい。
- ・課題はありますが、それでもある限りメンバーや参加者で話し合っている方向につなげていきたい。

【アピールポイント】

- ・住民による手作りのおもてなし、皆がしたいことを皆で決めてやってみる。
- ・何よりメンバーが笑顔で楽しんでいます。
- ・住み慣れたこの地域で自分らしく「みんなの願い」を生きる！

那須塩原市

円と縁

活動開始時期

平成28年7月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

地域に住む高齢者の皆さんを対象とした“円とはほっこりまーるく円満”に“縁とはいろいろなご縁があるように”そんな思いでスタートした“ちいきカフェ円と縁”

【活動内容・活動頻度】

- ・毎月第2、第4火曜日
- ・10時～11時30分
- ・スタッフを中心に、参加者と一緒にやりたいことを考え、企画、準備、実行を皆で実施している。

【メンバー構成】

- ・チーム員：現在の参加者は7名（最大14名程度）
- ・メンバーの属性：地域住民スタッフ（4名）
那須塩原市社会福祉協議会（1名）
※地域支え合い推進員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・平成28年7月設立
- ・令和7年9月、市よりチームオレンジへの加入を説明し了承
- ・令和7年11月、チームオレンジとして登録

【連携する機関】

- ・民生委員、自治会長
- ・那須塩原市高齢福祉課
- ・那須塩原市社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・地域で実施していることで、歩いて来ることが出来る。
- ・参加者だけでなく、スタッフも楽しみになっている。
- ・地域支援事業（サービスB）として実施している。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・無理なく長く続けられることを意識している。
- ・新規希望者等は、スタッフで相談をして対応している。
- ・参加者によっては送迎をしており、事故等が起きた場合を考慮し、誓約書を作成した。

【今後の展望・課題】

- ・スタッフと協力し、誰が休んでも、体調を崩しても実施できるような体制を常に考えている。
- ・令和6年以降、認知症に関する講演会が実施できていない。今後も連携機関とつながりを持ちながら、認知症に関する普及啓発を考えていきたい。

【アピールポイント】

- ・一般企業の補助金を申請し、認知症の普及啓発を目的とした講演会を開催した。周知には社会福祉協議会等の協力もあり、100名近くの参加者が集まったこともある。
- ・スタッフ4名は、つながり合い活動（みまもり活動）にも参加している。対象者は25名、支援者は民生委員、元自治会長を含む19人。

さくら市

チームオレンジさくら

活動開始時期

令和4年3月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症になっても、本人や家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域で活動する団体がつながり、認知症に関する理解を深めながら、本人や家族を見守り支えることを目的とする。

【活動内容・活動頻度】

- ・ 傾聴ボランティアによる高齢者施設や月2回の傾聴活動。
- ・ 「オレンジカフェ行ってみよう」による認知症カフェの開催、取材及び活動内容の周知
- ・ ぴーちサロンによる認知症カフェ開催による交流や居場所づくり
- ・ オレンジカフェ笑々流による認知症カフェ開催による交流・居場所づくり

【メンバー構成】

- ・ 傾聴ボランティアのメンバー
- ・ 「オレンジカフェ行ってみよう」のメンバー
- ・ ぴーちサロンのメンバー
- ・ オレンジカフェ笑々流のメンバー

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・ 認知症地域支援推進員へチームオレンジ設置について説明
- ・ 既存の地域活動を活かしたチームづくりについて検討
- ・ 2022年、各活動団体の代表者へ目的や活動内容を説明する
- ・ 各団体の代表者と複数回の会議を重ね、活動方法や役割について意見交換を実施
- ・ 各団体が従来の活動を継続しながら、合同研修や活動報告を行う形で合意
- ・ 2022年3月30日に「チームオレンジさくら」を発足

【連携する機関】

- ・ さくら市高齢課
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 認知症地域支援推進員
- ・ 市内の認知症カフェ
- ・ 認知症の人と家族の会 世話人
- ・ 傾聴ボランティア団体
- ・ 認知症サポーター

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・ 各団体がこれまで取り組んできた活動を尊重できている
- ・ 講義だけでなく、VR体験、本人の講演、意見交換等を取り入れた

- 【効果】
- ・ 各団体が活動を継続しながら、認知症について学び合う機会を設けることができた
 - ・ 団体同士がお互いの活動内容や特徴を知り、顔の見える関係づくりにつながっている

【今後の展望・課題】

- ・ 研修で学んだことを、それぞれの日頃の活動にどのように活かしているか振り返る機会を設けたい
- ・ チームオレンジの活動を市民や関係機関に広く周知する

【アピールポイント】既存の4つの活動団体が、それぞれの特色や活動を大切にしながらチームオレンジを構成している。各団体に新たな負担を求めるのではなく、これまでの活動を継続しながら、緩やかにつながり、年1回の合同研修と活動報告を通して、継続的な学びと団体間の交流を図っていることが特徴です。



認知症体験から気持ちや困りごとを知る
勉強会

地域資源・繋げられる場所を学ぶ勉強会



那須烏山市

那須烏山市ふれあいの里

活動開始時期

令和4年12月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症の方もそうでない方も、市内介護予防事業に参加出来る。地域で見守りを行い、必要時参加者の情報を、健康福祉課や地域包括支援センター等に繋ぐ。

【活動内容・活動頻度】

- ・フレイル対策のための通いの運営
- ・週1回～週2回

【メンバー構成】

- ・チーム員：ふれあいの里16地区37名
（ステップアップ講座参加者）
- ・メンバーの属性：市民によるふれあいの里運営スタッフ

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・ふれあいの里スタッフを対象に、チームオレンジの役割を担ってもらうために、ステップアップ講座を開催。

【連携する機関】

- ・市健康福祉課
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員

【効果】

- ・認知機能が低下しても、ふれあいの里を辞めることなく、その人を見守り、可能な限り参加出来ている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・必要時情報を市・地域包括支援センターへ連絡するようにスタッフに周知を行っている。

【今後の展望・課題】

- ・ふれあいの里スタッフ向け研修会等で、認知症に関するフォローアップを行い、認知症の方を地域で見守る意識を維持していく必要がある。

【アピールポイント】

- ・地域の住民が、地域住民を支える仕組みが出来ており、認知機能が低下しても、ふれあいの里に継続して参加できる様、スタッフが参加者を支援している。

那須烏山市

那須烏山市介護予防サポーター

活動開始時期

令和4年12月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症の方もそうでない方も、市内介護予防事業に参加出来る。地域で見守りを行い、必要時参加者の情報を、健康福祉課や地域包括支援センター等に繋ぐ。

【活動内容・活動頻度】

- ・フレイル対策のための通いの運営
- ・概ね月1回から週1回

【メンバー構成】

- ・チーム員：18名（ステップアップ講座参加者）
- ・メンバーの属性：市民による介護予防ボランティア

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・いきいきサロンサポーターを対象に、チームオレンジの役割を担ってもらうために、ステップアップ講座を開催。

【連携する機関】

- ・市健康福祉課
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員

【効果】

- ・認知機能が低下しても、ふれあいの里を辞めることなく、その人を見守り、可能な限り参加出来ている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・必要時情報を市・地域包括支援センターへ連絡するようにサポーターに周知を行っている。

【今後の展望・課題】

- ・サポーター向け研修会等で、認知症に関するフォローアップを行い、認知症の方を地域で見守る意識を維持していく必要がある。

【アピールポイント】

- ・地域の住民が、地域住民を支える仕組みが出来ており、認知機能が低下しても、ふれあいの里に継続して参加できる様、サポーターが参加者を支援している。

下野市

チームオレンジしもつけ

活動開始時期

令和元年5月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

- ・認知症について正しく理解し、認知症の人や家族の人に対して温かい目で見守ることができる応援者となる。
- ・認知症になっても本人らしく、できる限り住み慣れたよい環境で安心した生活ができる地域づくりを目指す。

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェの運営(5か所)：月1回～月2回
- ・認知症のイベント協力
- ・研修会：年1回
- ・定期交流会：年2回
- ・見守り・普及啓発活動(オレンジガーデンプロジェクト)

【メンバー構成】

- ・チーム員：73名
- ・メンバーの属性：認知症サポーター養成講座と認知症サポーターステップアップ講座を受講した下野市在住者で、本会の目的に賛同しチームオレンジしもつけに登録届を提出した者で構成する。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・「チームオレンジしもつけ」結成
- ・市の委託でオレンジカフェを運営する

【連携する機関】

- ・下野市高齢福祉課
- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・新しい認知症観の啓発
- ・認知症の人やその家族からの相談に対応する
- ・本人・家族・介護者の居場所

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・「チームオレンジしもつけ活動の手引き」を配布し、活動の目的・活動内容・活動のポイント等を明確にした。
- ・総会・定期交流会・役員会・研修会を開催している。

【今後の展望・課題】

- ・認知症の人の声や視点を取り入れ、認知症の人や家族と共に活動していく。
- ・定期的に情報交換を行い、認知症の人と共に楽しめる工夫をしていく。
- ・誰でもが気兼ねなく参加できるオレンジカフェを目指す。

【アピールポイント】

新しい認知症観(本人の声を聞く・本人の力を信じる)とボランティアの心得として「やらされているのではなく自分も楽しみながら活動」している。

上三川町

上三川町チームオレンジ 「マリーゴールド」

活動開始時期

令和6年6月

類型

第3類型

目的・ コンセプト

認知症の人も そうでない人も 暮らしやすいまち上三川

【活動内容・活動頻度】

- ・地域活動、サロンでの見守り・話し相手
- ・認知症の人や家族からの相談、関係機関等へのつなぎ
- ・認知症に関する普及啓発
- ・オレンジカフェ「えんがわ」支援（月1回）
- ・チームオレンジ連絡会（年2回）

【メンバー構成】

- ・チーム員：50名（令和8年4月1日現在）
- ・メンバーの属性：
 - 認知症地域支援推進員
 - キャラバンメイト
 - 認知症サポーター（認知症ステップアップ講座を受講した者）

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・町、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、キャラバンメイトで話し合いを進め、チームオレンジの類型や活動内容等の検討を行った。令和6年6月27日にチームオレンジ発足式を行い、設立となった。

【連携する機関】

- ・町（健康福祉課）
- ・地域包括支援センター
- ・認知症地域支援推進員（在宅介護支援センター）

【効果】

- ・本町のチームオレンジは個別支援型であるため、各々の活動が見えにくい状況であるが、連絡会でグループワークを取り入れ、他のメンバーの活動を知る事ができている。
- ・顔のつながりができることで、認知症支援推進員に相談がしやすくなった。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・まだチーム員同士の交流が少ないため、チームオレンジ連絡会の中で活動報告や意見交換等を行い、チーム員が孤立しないようにしている。
- ・チームオレンジのTシャツを作成し、活動時に着用することによってチームオレンジのPRに繋がっている。

【今後の展望・課題】

- ・キャラバンメイトなど、既に地域で活躍しているメンバーもいるが、まだ積極的に活動出来ていないチーム員も多く、活動に差がある。今後は、認知症に関する研修を行う等、チーム員全体のレベルアップを図っていく必要がある。

【アピールポイント】

- ・メンバーの中には、キャラバンメイトやボランティア等、積極的に活動している者もいる。また、介護施設等の専門職もいるため、チーム員全体のレベルアップを目指す中での活躍が期待できる。



益子町

チームオレンジ ましこ

活動開始時期

令和5年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症になっても自分らしく安心して暮らせる地域づくり

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症サロンの運営（2回/月）
- ・認知症予防教室の補助
- ・自主団体やサロンのサポート

【メンバー構成】

- ・チーム員：10名
- ・メンバーの属性：看護師、保健師、歯科衛生士、栄養士、
傾聴ボランティア、認知症介護経験者等

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・ステップアップ講座受講後、既存のサロンや認知症カフェでの認知症当事者への関わり方を検討していくため、チームオレンジを設置した。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会

【効果】

- ・認知症の方が地域のサロンに参加する時にチームオレンジのメンバーがいることで、安心して参加することができている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・チームオレンジコーディネーターが事前に何種類か活動内容を提示し個々に活動内容を決めてもらっている。

【今後の展望・課題】

- ・今後、認知症当事者を中心とした個別活動をおこなっていきたい。

【アピールポイント】

- ・ほとんどのメンバーが、経験豊かな専門職やボランティア経験者である。

茂木町

チームオレンジすまいる

活動開始時期

令和3年5月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

すまいるカフェ（認知症カフェ）運営

【活動内容・活動頻度】

- ・すまいるカフェ（認知症カフェ）
- ・毎月第3木曜日 13:30～15:00
- ・ミニ講座や誰でも話せる座談会、個別相談など

【メンバー構成】

- ・チーム員：19名
- ・メンバーの属性：茂木町認知症家族の会

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・すまいるカフェ（認知症カフェ）を開催していた認知症家族の会員が認知症サポーター養成講座ステップアップ講座を受講し、そのままチームオレンジとして活動している。

【連携する機関】

- ・役場 保健福祉課
- ・茂木町地域包括支援センター
- ・ふれあいの家（認知症カフェ開催場所）

【効果】

- ・定期的なすまいるカフェ（認知症カフェ）の開催
- ・チーム員も認知症介護者であるため、情報交換や息抜きとなっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・チーム員の思いを聞きながら、ミニ講座などを企画

【今後の展望・課題】

- ・来客に対して、それぞれのメンバーが対応可能になる。
- ・訪問型の支援にもつなげていきたい。（メンバーの高齢化やチーム員の増加が課題である）

【アピールポイント】

- ・介護経験者が多く、介護の苦楽を共有したい思いがあります。多くの方がすまいるで介護できるように活動しています。



市貝町

チームオレンジ いちかい

活動開始時期

令和8年1月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症の理解を深めるとともに、その人らしい暮らしの実現と地域福祉の向上を図るための活動を行う

【活動内容・活動頻度】

- ・いちまる会（オレンジサロン）の運営 月1回
- ・アルツハイマーデー月間のPR

【メンバー構成】

- ・チーム員：8名
- ・メンバーの属性：地域住民（認知症本人、認知症の方の家族、認知症の理解を深めたい方等）、サポーター、

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・いちまる会のサポーターとして参加されていた方にステップアップ講座を受講してもらい、チームオレンジとして活動している。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・市貝町長寿福祉課高齢介護係
- ・市貝町社会福祉協議会

【効果】

- ・会員の本人に対する関わり方の変化（さりげなく声を掛けてサポートするといった）
- ・支援者自身の意識向上につながっている

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・事前に年間での活動内容を決定し、活動に飽きないように工夫している。また手先を使った作品作りや、脳トレといった内容を取り入れ、楽しんで参加できるようにしている。

【今後の展望・課題】

- ・民生員へのステップアップ講座を開催し、チームオレンジに携わるサポーターの増員を図る。また、認知症を地域で見守る意識を維持していきたい。
- ・新規参加者が乏しいため、予防教室や町の健診、その他の事業等で地域住民への周知・啓発をしていきたい。

【アピールポイント】

- ・認知症当事者及びその家族が参加されているのが強み。
- ・明るく楽しい雰囲気ですべて気軽に参加できるサロン。



看板



クリスマスリースづくり



フレイル予防講座



県の出張サロン



調理実習

芳賀町

芳賀町

活動開始時期

令和2年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

「自分は認知症です」と言える地域づくり

【活動内容・活動頻度】

- ・介護兼認知症カフェの開催（月1回）
- ・認知症啓発イベント開催

【メンバー構成】

- ・チーム員：38名
- ・メンバーの属性：住民

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・生活支援サポーター（自分を含めた誰かのためにできる範囲でアクションを起こす人）が認知症関連の活動をする際にチームオレンジとしての活動に当てはめている。

【連携する機関】

- ・町内福祉事業所

【効果】

- ・メンバーの認知症への理解向上
- ・活動への意識付け

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・メンバーの共通理解、自主性の尊重

【今後の展望・課題】

- ・住民へのさらなる啓発活動
- ・当事者への周知、参加促進

【アピールポイント】

- ・活動を通して認知症についての学びを深めている。
- ・「自分は認知症です」と言える、受け入れてくれるメンバーで活動している。



介護兼認知症カフェ（オレンジカフェ）



認知症啓発イベント

壬生町

チームオレンジ福来ら

活動開始時期

令和2年12月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

『自分が認知症になった時にも、安心できる場があるといいね！』

【活動内容・活動頻度】

- ・月1回の認知症カフェの運営
- ・近所や友人などで認知症の困りごとなど相談にのったり、見守りをしている。また、包括支援センターにも報告もしたりする

【メンバー構成】

- ・チーム員：27名
- ・メンバーの属性：壬生町在住のボランティア

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症カフェのボランティアをつづけながら、より地域での活動の場を広げるため、ステップアップ講座を受けながらチームオレンジを発足した。

【連携する機関】

- ・認知症カフェ・包括支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・役場・地域の住民等

【効果】

- ・ボランティアさん達のから「認知症の事・地域の事を含め、お互いさまの関係性が大事だね」等の言葉が聞かれるようになった

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・認知症をひとつとではなく、自分事としてとらえられるように工夫している

【今後の展望・課題】

- ・活動経費

【アピールポイント】

- ・チームオレンジの活動が楽しく、やりがいをもって行えるように工夫している

野木町

チームおれんじ

活動開始時期

令和6年4月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

おれんじカフェ（認知症カフェ）の運営

【活動内容・活動頻度】

活動日：月1回

活動内容：講話や体操など月替りで企画。
その他談話、相談など。

【メンバー構成】

- ・チーム員：12名
- ・メンバーの属性：本人、家族、認知症に関心のある方、サポーター、町職員、地域包括支援センター職員

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

元々定期的に開催していて認知症カフェが、チームオレンジの目的や活動内容に合致していたため設置。

【連携する機関】

- ・町（健康福祉課高齢対策係）
 - ・地域包括支援センター
 - ・社会福祉協議会
 - ・自治会
- など

【効果】

- ・メンバーの認知症に対する理解が深まっている。
- ・認知症カフェが住民の集いの場となっており、情報共有や閉じこもり予防につながっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・毎月異なる企画を設け、飽きないように、また新しい参加者の獲得につなげている。
- ・移動手段の問題もあり、年数回出張カフェという形で開催場所を変え、誰でも参加しやすいようにしている。

【今後の展望・課題】

- ・認知症カフェの実施主体、運営が行政、包括であり、運営側の負担が大きくなっている。
- ・サポートメンバーも高齢なため、新たなサポートメンバーの獲得が必要である。

【アピールポイント】

- ・チームメンバーに行政、包括職員、元ケアマネがいることで、相談体制が整っており適切な制度やサービスにつながりやすい。
- ・認知症の有無に関わらず、誰でも気軽に参加しやすい内容を企画している。



塩谷町

チームおれんじしおや

活動開始時期

令和4年9月

類型

第3類型

目的・ コンセプト

認知症になっても安心して暮らせる地域づくり

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェの開催（町内2ヶ所）
 - ①こいこいサロン（月1回）
 - ②いちえオレンジカフェ（月2回）

【メンバー構成】

- ・チーム員：47名
- ・メンバーの属性：元気サポーター
（介護予防ボランティア・生活支援サポーター）

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・H28から元気サポーター養成講座を開催
講座の中で、毎回認知症サポーター養成講座を実施
- ・R4年9月に元気サポーターを対象にステップアップ講座を開催し、チームオレンジを発足した

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター

【効果】

- ・当事者とそのご家族、支援者のつながりができている。
- ・メンバー自身の認知症の理解促進、生きがいづくりや仲間づくり

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・メンバー自身が楽しく参加できるよう配慮している
- ・メンバーの共通理解

【今後の展望・課題】

- ・認知症カフェの活動が主となっているため、新たな活動を行い、チームオレンジの活動を周知していきたい。
- ・コアメンバーの高齢化により、新しいメンバーを育てていくことが課題である。そのため、ステップアップ講座を受講した新たなメンバーを増やし、地域全体で安心して暮らせる町づくりを推進していきたい。

【アピールポイント】

- ・ほとんどのメンバーが経験豊かな専門職やボランティア経験者である。
- ・アットホームな雰囲気、居心地のよい居場所となっている。



高根沢町

チームひまわり

活動開始時期

令和8年3月

類型

第2・3
類型

目的・ コンセプト

「毎日楽しく！」とはいかなくても、「上を向いて生きていきたい！」

【活動内容・活動頻度】

- ・オレンジサポーターが毎月自宅に訪問。
- ・偶数月に開催されるオレンジカフェに参加。

【メンバー構成】

- ・チーム員：11名
- ・メンバーの属性：本人：1名、家族：1名、オレンジサポーター：3名、ケアマネ：1名、包括職員：2名、認知症地域支援推進員：2名、コーディネーター：1名

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

・元々オレンジカフェに参加されていたご夫婦。自ら上記目的を口にされており、関わっていた皆で活動していきたい、とチーム設置に至った。

【連携する機関】

- ・町役場
- ・地域包括支援センター
- ・社会福祉協議会

【効果】

- ・オレンジカフェで、自身の経験を話すことで、聴いている方の役に立てている実感が持てている。
- ・訪問で話を聞いてもらう事で、本人・妻共に、気持ちの表出ができています。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・本人の気持ちや体調を優先し、可能な範囲での活動とする。
- ・妻の気持ちも受け止めるよう、配慮している。

【今後の展望・課題】

・現在、チームオレンジの活動とは別に地域サロンにも参加されており、地域サロンにもチームの輪が広がって行けるようになれば、と検討中。

【アピールポイント】

・チームひまわりの本人さんは、希望大使のように、認知症になっても誰かの役に立てる、という思いを発信してくれています。メンバーみんなが、学びながら楽しく活動しています。



那須町

ゆっくりサロン

活動開始時期

令和7年 月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症になっても、那須の大自然の中で自分らしく暮らし続けるために

【活動内容・活動頻度】

- ・住民主体の任意団体として、認知症の方に限らず、「みんなの居場所」として月曜日から金曜日まで活動している。
- ・介護予防体操や麻雀、手芸等の活動を行う。

【メンバー構成】

- ・チーム員：4名
- ・メンバーの属性：オレンジカフェのボランティアとして活動。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・複数のオレンジカフェでひとつのチームであったが、それぞれの活動を尊重し、那須町内のオレンジカフェそれぞれをチームオレンジとして登録。

【連携する機関】

- ・町、地域包括支援センター 等

【効果】

- ・認知症の方に特化せずにオープンにすることで、様々な交流が生まれる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・認知症ということを意識しない。
- ・それぞれの悩みを共有できるようにする。

【今後の展望・課題】

- ・ボランティアの後継者がいない。

【アピールポイント】

- ・「困った時は、お互いさま」をモットーに

オレンジ・カフェ ゆっくりサロン

～気楽に 話せる場、ホッとできる場～



『みんなの居場所ゆっくりサロン』は (月)～(金)

家族を含め誰もが自分の時間を楽しめ

「困った時は お互いさま」をモットーに

認知症の方もそうでない方も『できることは 自分たちで』と

自然な助けあいのある家庭的な居場所です。

* オレンジ・カフェ ゆっくりサロン *

那須町認知症サポーター養成講座「ステップアップ教室」で認知症に

ついて学んだボランティア&スタッフが毎日います。

参加ご希望日にはご連絡ください。送迎は要相談です。

※「介護する家族の交流会」 毎月 第2 (木) 10:30～12:00

介護を一人で抱えて目いっぱいになる前にお仲間と共有したり、専門職からお話を聞いたり

して、少しの時間気持ちのリフレッシュを！ (参加費：無料 ランチ600円)

【お問い合わせ】

ゆっくりサロン

担当 (荒木 080-1168-2929)



那須町

こもれびの時

活動開始時期

令和7年 月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症になっても、那須の大自然の中で自分らしく暮らし続けるために

【活動内容・活動頻度】

- ・住民主体の任意団体として、毎週火曜日に活動している。
- ・季節に合わせた健康の話や保健師や看護師が開催する相談会を実施。月に1回のイベントも開催。

【メンバー構成】

- ・チーム員：7名
- ・メンバーの属性：オレンジカフェのボランティアとして活動。

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・複数のオレンジカフェでひとつのチームであったが、それぞれの活動を尊重し、那須町内のオレンジカフェそれぞれをチームオレンジとして登録。

【連携する機関】

- ・町、地域包括支援センター 等

【効果】

- ・男性の参加者も多いことから、新規の男性の方も参加しやすくなる。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・月のカレンダーを作成し、参加者にも活動をわかりやすく伝える。
- ・みんなが参加できる月1回のイベントを開催する。

【今後の展望・課題】

- ・オレンジメイトも高齢化していき、後継者の問題出ている。

【アピールポイント】

- ・認知症に限らず、誰でも参加OK!

オレンジカフェ
こもれびの時

毎週火曜日
(第五週はお休み)
九時半～十二時半
くらしのわ
那須町高久甲五―三―一
(旧高久保育園)

ひとり暮らしの方
物忘れが心配な方
認知症と診断され
たご本人
そのご家族の方
どなたでもどうぞ！
一緒にできることや
やりたいことを
しませんか

会って
話して
笑って

自分らしく
過ごす
ところ

- ・お茶代100円
- ・簡単な体操
- ・茶話会
- ・保健師さんのお話
- ・お花見やお話などみなさんの
やりたいことをしてつながる所

こもれびの時
お問い合わせ先
代表 市川：090-3509-5783

認定：那須町生きがいサロンの
認定を受けています
看護師、認知症地域支援推進員
元保健師、傾聴ボランティア
がいます

至湯本 那須町高久甲5131
中華料理 鈴さん
くらしのわ
(旧高久保育園)
スーパービッグ
愛宕山公園
那須分岐信号
那珂川
至黒磯
晩翠橋




那須町

ほっとカフェ

活動開始時期

令和7年10月

類型

第1類型

目的・ コンセプト

- ①本人も家族もほっとできる場所
- ②その人らしくいられる場所
- ③一人一人が役割を持って参加できる場所

【活動内容・活動頻度】

- ・オレンジカフェの開催：月1回
- ・開催場所：ゆめプラザ・那須（ラウンジ）

【メンバー構成】

- ・チーム員：20名
- ・メンバーの属性：オレンジメイト、地域おこし協力隊、ボランティア、地域包括支援センター

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

・町の高齢化率をみると、約二人に一人が65歳以上となり認知症当事者の増加、家族の介護負担の増大、認知症当事者の「空白の期間」の弊害など踏まえ、ボランティアと専門職が早期に関われる場の設置がの課題であった。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・町保健福祉課、保健センター
- ・SC

【効果】

- ・参加者自身が、楽しく積極的に活動をし役割を持つことができている。
- ・家族（ケアラー）支援につながっている。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・オレンジメイト主体で運営し、活動における守秘義務の研修など自主的に行い、包括は後方支援をしている。
- ・開催時の準備・片付けも、参加者・家族もみな一緒に行う。

【今後の展望・課題】

- ・地域の拠点づくり、多世代間の交流の促進を図るなかで認知症の理解を深めていく。
 - ・専門職・関係機関の連携強化、特にケアマネジャーとの連携を深める。
- <課題>・来所のための移動手段の確保・介護者の参加支援

【アピールポイント】

- ・看護職のオレンジメイトが在籍、包括職員の支援が手厚い！
- 「誰が来てもいい！！、気軽に温かい交流の場！！」となっています。

ほっとカフェが大切にしていること



- ☆認知症や介護等様々なケアの悩みを話し合える場所
- ☆様々な思いを受け入れる事の出来る安心できる場所
- ☆小さなことも様々な思いを話せる場所
- ☆気楽に参加できる場所
- ☆参加者同士の情報交換の場所
- ☆参加者が孤独にならず繋がりを育むことが出来る場所



那珂川町

那珂よしオレンジ

活動開始時期

令和5年3月

類型

第2類型

目的・ コンセプト

認知症やその家族が安心して暮らし続けることのできる地域づくりを推進する。

【活動内容・活動頻度】

- ・認知症カフェ運営のサポート
- ・認知症サポーター養成講座での補助（寸劇）
- ・認知症について周知をするため動画を作成

【メンバー構成】

- ・チーム員：30名
- ・メンバーの属性：65歳以上の女性、介護予防ボランティア

【チームオレンジの設置に至るプロセス】

- ・認知症サポーター養成講座修了者で、ボランティア活動や町のイベントに積極的に参加されている人へステップアップ講座参加の声をかけた。ステップアップ講座修了者をチームオレンジとした。

【連携する機関】

- ・地域包括支援センター
- ・基幹相談支援センター
- ・

【効果】

- ・チームオレンジのメンバーの中には、町の介護予防ボランティアをしている方も多くいるため、認知症があっても安心して運動教室に参加してもらえる体制ができている。
- ・認知症の方を地域で見守る意識の向上。

【活動を進めて行く上での工夫・配慮】

- ・チームオレンジのメンバーには、介護予防ボランティアなどほかの役割を担っている方も多いため、活動が負担とならないように配慮している。

【今後の展望・課題】

- ・チームオレンジの活動内容が明確にならず、メンバーの活動意識にばらつきがある。
- ・チームオレンジの研修会や交流を定期開催できるようにしていきたい。

【アピールポイント】

- ・メンバーはイベントやボランティア活動に積極的に参加されている方で行動力がある。

認知症カフェのチラシ

おれんじカフェ（認知症カフェ）

「ちょっくら」のご案内

お茶を飲みながら、お話や相談が出来る居場所・・・
おれんじカフェ「ちょっくら」を開催しています。



Q. 誰が行く所？

A. 認知症当人の方やその家族、物忘れが心配な方や介護されている方など
地域の方など誰でも大丈夫です。

Q. 何をしますの？

A. お茶を飲んだり、おしゃべりをしたり、相談の時間も。
時には特技を披露するなど、自由に過ごせる場所です。
お気軽にご利用ください。
認知症に関する相談も受け付けております。



Q. いつやるの？どこでやるの？

A. 第1・3木曜日（原則）10時～11時30分です。

会場は第1木曜日は高齢者生産活動施設（馬頭図書館の東側）

第3木曜日はわかあゆ認定こども園おひさま広場です。

上記の日程や会場は原則であるため、詳細の日程・会場は裏面カレンダーを参照ください。

参加申込は不要です。ちょっと時間があるときに「ちょっくら
おしゃべりしてくっか」、「ちょっくら相談してみっぺ」と気軽
に参加ください。

保健師・認知症地域支援推進員等の職員でお待ちしております。

男性も歓迎！
ぜひ参加してみ
てください。



自己負担（原則）
お茶・おやつ代等 **100円**を
お持ちして参加ください。



認知症サポーター養成講座 寸劇の様子

